



開物成務

令和5年 1月 30日（月）発行

校長 渡辺 理恵

今年もよろしくお願いします！

干支の癸卯（みずのとう）の年がスタートしました。コロナ禍以降、停滞し続けていた世の中に、そろそろ今まで培われた力を試す年がやってきたという意味があるそうです。始業式では、子どもたちに「ウサギ年なので、飛躍できるようにいろいろなことに挑戦しましょう。」「3学期は52日（6年生は50日）しかありません。3学期の終わりまでにどのような姿になっていたいか、自分のめざすべき姿を思い浮かべ、まだできていない部分をしっかりがんばり『すてきさん』になって、次の学年につなげましょう。」と話しました。

さて、本校は、1月28日に開校150周年を迎えました。今年は記念すべき年なので、子どもたち一人一人が、素敵な足跡を残せるように全校で頑張りますので、ご理解・ご支援のほど、よろしくお願いします。

開校150周年おめでとう！

本校は、1月28日に開校150周年を迎えました。

1873年(明治6年)、西福寺に益習館として開校し、場所や校名を変えながら、災害や戦争を体験しても、町のシンボルとして150年間子どもたちを見守ってきました。その歴史の重みや先人たちに思いを馳せると、感慨深いものがあります。そして、この節目に立ち会えたことを、本当にありがたくうれしく思います。

前日の1月27日（金）には、開校150周年記念朝会を行いました。今までは、学校の歴史を



<明治時代の木造校舎>



<現在の校舎>

簡単に紹介していましたが、今回は特別な朝会なので、開成小のご出身でもある府川町長様に、開成小時代の思い出を語っていただきました。子どもたちは、笑顔あふれる町長様の温かいお話に引き込まれ、木造校舎だったことやクラスの名前が赤組・白組だったこと、朝会のとき鼓笛隊の演奏に合わせて昇降口まで行進していたことなど、現在との違いに驚いていました。

また、イベントとして例年鳴らしている『開成小誕生の鐘』の当選者を今年は6人に増やし、各学年の代表児童に鳴らしてもらいました。



①8:10の鐘



②9:30の鐘



③10:30の鐘



④11:25の鐘



⑤13:00の鐘



⑥13:35の鐘

ちょうど2・3校時に授業参観もあり、鐘の音を耳にした保護者の皆様もいらっしゃったことと思います。厳かな鐘の音が学校中に響き渡りました。

次の節目は200周年でしょうか。大きくなった子どもたちは、きっと150周年の時のことを懐かしく思い出すでしょう。そのためにも、この後のすてきな未来を、力を合わせて創ってほしいと思います。

交通安全フェスティバル 12/9(金)

全校で合唱や合奏を聴き合う「しいのみコンサート」はコロナ禍でできませんが、その代わりに神奈川県警音楽隊にご来校いただき、校庭で「交通安全フェスティバル」を実施しました。松田署の警察官の方から交通安全の話を聞いた後、音楽隊の演奏が始まりました。

まずは「ドレミの歌」からスタートです。次々にアニメの主題歌等、子どもたちの好きな曲が演奏されると、子どもたちは、リズムに乗って体を揺らしたり、笑顔で歌詞を口ずさんだりして楽しんでいました。

後半は、演奏に合わせたカラーガードの、色とりどりのフラッグが揃った演技も見事でした。

やはり、生の演奏は、体全体に響き、聴いて心地よく、素敵な時間を過ごすことができました。



国際交流～5年～12/14(水)

5年生が、東海大学の留学生と交流しました。町の事業の1つで、3年ぶりの実施となりました。日本語を勉強している留学生（韓国、タイ、デンマーク、トルコ、ドイツ、ロシア）9名が、各学級に分かれて母国紹介のプレゼンテーションをしてくれました。子どもたちは興味津々で聞いていました。後半は、グループに分かれて一緒に折り紙を折って楽しみました。

お知らせ

町役場も、平日 17:15 以降、留守番電話対応になりました。緊急対応が必要な場合は、留守電案内の番号にかけてくださるようお願いいたします。

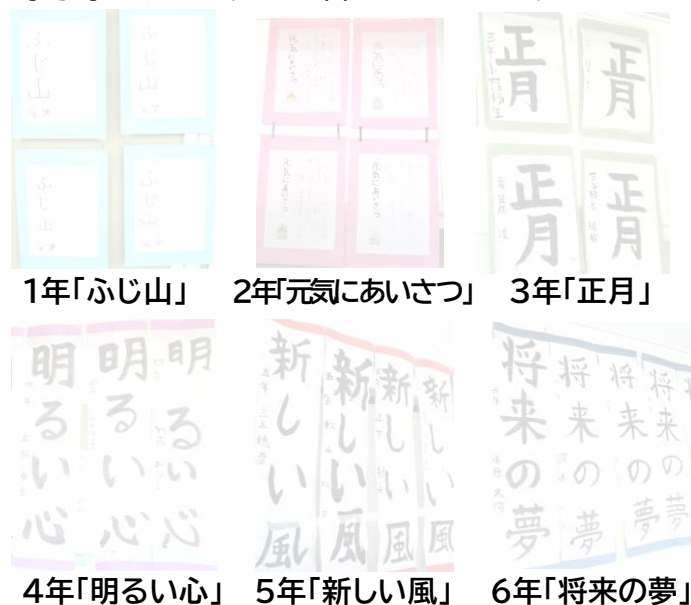
書き初め

冬休み中も、ご家庭で練習したことと思いますが、3学期が始まってそれぞれの学年で書き初めが行われました。

書き初めは、1月2日に、文字が上達するようにと願いを込めて、自分の目標や決意、縁起の良い言葉などを、その年の恵方に向かって書く伝統行事です。また、書いた紙をどんど焼きの火に入れて燃やし、火の勢いで高く舞い上がると、文字が上手になると言われています。

1・2年生は硬筆で行いました。3年生は、半紙にいつもの筆で書きました。4・5・6年生は、条幅に極太筆で書きました。

どの学年も、静かにピンと張りつめた空気の中で、集中して一文字一文字丁寧に、心を込めて書いていました。



すてきさん発見!!

「開成小誕生の鐘を鳴らそう」の応募箱には、本当にたくさんの応募がありました。募集が始まると、鳴らした経験のある子が、「校長先生、また鳴らしたいけど、鳴らした子は応募できないんだよね。」「他の子も鳴らしたいものね。」と悲しそうな顔で聞いてきます。「ごめんね、我慢してね。」と答え、「他の子のことも考えられるなんてえらいね。」と言うと、「わかった。」と納得して笑顔で帰っていきました。

1月24日の給食時に、放送委員会の子に手伝ってもらい抽選会をしました。当選した子を発表すると、それぞれの場所で歓声と拍手が聞こえます。ある学級では、自分は当たらなかったのに、自分の学級から当選者が出たことに感動して、うれしくて泣いていた子がいたそうです。ちょっとしたイベントでしたが、そこにはいろいろな物語があり、開成小の「すてきさん」な一面が見られました。